

# より良く生きる――出居清太郎先生の世界―― 第17回

山本博也

**(1)二等車にみすぼらしい身なりの婦人が**

終戦後まだ間もない昭和23年頃のことである。新潟行き汽車(二等車)に乗っていると、高崎駅で七つぐらいと四つぐらいの二人の子供を連れ、風呂敷包み一つと、明治時代の遺物らしい古ぼけた鞆を持って、みすぼらしい身なりの婦人が乗ってきた。どう見ても二等客らしくない姿であった。腰を下ろそうとすると、その前に座っていた紳士が「ここは

二等車ですよ」と教えた。すると婦人は

「二等、三等ぐらい分かっていますよ」

と言ひ、古ぼけた垢まみれの財布から青切符を出して「この切符でここに乗っては悪いのですか」と決めつけた。紳士は「すみません」と謝り、きまり悪そうな様子で席を替えてしまった。

「この人よほど気持ちが悪がっている、ひねくれている。なんとか和やかにしてあげたいものだ…」と私は思った。

そのうち15分ほど停車する駅に着いたので、

「どちらへおいでになるのですか」

と聞くと、

「私の行き先を調べてどうするんですか。あなたは警察の人ですか」

と決めつけられた。もつともなことであると思つたので、「すみません」と詫びたが、何とかしてこじれた気持ちを解きほぐしてあげたいものだと思ひ続けた。

やがて長岡近くまで来ると、下車の用意を始めたので、「荷物を持ちましようか」と言う、「いいです」とけんもほろろに断られた。そこで今度は何も言わずに網棚の荷物を下ろし、四つぐらいの下の子を抱いてホームに降ろしてあげた。

すると婦人は、ホームの大勢の人中で声をあげて泣き出し、「こんな仏様のような旦那様に巡り合ったことがあります。：」と私は思わぬお褒めの言葉を頂戴した。

(出居清太郎先生の言葉から)

ここには戦後間もないころの列車の中の光景が出ています。当時は二等車(今のグリーン車でしょう)に乗る人と三等車に乗る人の階層が分かれていて、それは身なりや持ち物にもはっきり出ていた、そういう時代だったのでしよう。だから紳士は、みすぼらしい身なりの婦人に対して、車両を間違えたのだらうと思つて、親切心から、ここは二等車ですよと言つたのでしよう。

こういう光景を見たら、あああの婦人は紳士に見下されたように感じて、あんなきつい言葉を出したんだらう、紳士が、バツが悪くて席を替えたのもわかる、と誰もが思うでしよう。

そしてふつうはそれで終わってしまうわけですが、先生はそこで終わらずに、婦人のトガった心を和やかな心にもどしてあげたいと思われたのでした。それが先生の思いやりの心であり、愛だと思えます。

そこで「どちらへおいでになるのですか」と、普通の会話に誘おうとしたのですが、これは裏目に出て、婦人の気持ちをついにこじらせてしまいました。次に、婦人が下車する時に「荷物を持ちましようか」と声をかけましたが、これも不発におわりました。

最後に、網棚の荷物を下ろしてあげ、幼い子供を抱いてホームに降ろしてあげるといふ行動によってようやく、冷たく閉ざされていた婦人の心を開き、あたた

かくすることができたのでした。

## (2) 人のあと片付けをしてあげる

あと片付けをさせてもらおう、あるいは手伝ってあげることによって各人の徳が高まり、心の力がついてくるのである。良い気持ちを差し上げ、手伝ってあげるという実行が尊いのである。仕事のあと片付けは目に見えるが、目に見えない、気持ちのあと片付け、心のあと片付けに注意せねばならぬ。人が腹を立てた時、



カワウ 大西 恵

自分も腹を立てるようではいけない。人が腹を立てれば、自分はそのあと片付けとして、和やかな心で接することが大事である。

(出居清太郎先生の言葉から)

他人のやり残したことや、不手際・失敗の後始末をしてあげることはいいことです。たとえば簡単なことでは、電灯の消し忘れ、ゴミがそのままになっている、それを、その人を非難したりしないで、スツと後始末をするということです。

そのような具体的な事柄についてのあと片付けはわかりますが、先生は、「心のあと片付け」ということをおっしゃっています。「心のあと片付け」とはどういうことでしょうか？

先生は、人が腹を立てた時、和やかな心で接することが「心のあと片付け」になるとおっしゃっています。なるほどそういうことなのですね。つまり、マイナスの気持ち、トガった気持ち、冷たい気持ちに対して、プラスの、丸い、温かい言葉をかけ、態度で接すること、それが「心のあと片付け」ということでしょう。そういえば、(1)の話は、先生が、トガった、硬くなつた婦人の「心のあと片付け」をしてあげたお話といえます。こうして人々が、お互いに、「心のあと片付け」をし合っていければ、世の中はよほどおだやかな、明るく楽しいものになるに違いありません。

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1  
修養団捧誠会 <https://www.hoseikai.or.jp>